

epoch

エポック No92

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

平成27(2015)年8月 発行

第10期第6回 概要報告

平成27年5月22日、第6回生涯学習推進委員会議が開催されました。

平成27年度最初の会議ということで、昨年度のまとめ「(仮称)生涯学習大学の創設に向けた基本的な制度設計報告書」に基づき、今までの議論の振り返りを行いました。

その後、今年度秋からの実施に向けて作成されたモニターコースの募集要項(案)をもとに、今後の課題や問題点について話し合いました。

以下、概要をお送りいたします。



平成26年度 検討内容の振り返り



○以前事例研究を行った「なかの生涯学習大学」や「久喜市市民大学」は、在勤・在学者よりも在住者を中心に募集している。千代田区で在勤・在学者も積極的に受け入れようとする意図はどこにあるのか。

⇒千代田区は現在夜間人口が増加傾向にあり、5万7千人台まで上がっている。一方で、在勤・在学者を含めた昼間人口は80万人ほどおり、地区ごとに大学や官庁等機関、古書店街・電気街をはじめとするさまざまな機能を持っている。そうした千代田区の特徴を考えた上で、幅広い範囲から受講者を募った方がいいのではないかと考えている。

○各自治体の生涯学習機関名を見てみると、「シルバー」や「ことぶき」というような高齢者向けと、区民大学系に分かれている。各地では働き盛りの若い方の参加者はあまり多くないが、千代田区では在勤・在学者も積極的に募り、新しいものをつくっていく方向がいいと思う。

○生涯学習大学の卒業生が人材バンクに登録し、区内で活動しているサークルや個人の方の力になっていただく想定だが、今現在は九段生涯学習館の職員がこの役割を担っているのか。

⇒人材バンクは、区民の力をさまざまな形で

活かしていこうというもので、もともと職員が直接行う業務ではない。現在は人材バンク登録者の個人の力で講座事業を行ったり、サークルを始めたりという活動のみで動いている。今後は個人の得意な分野で活動を行うだけでなく、さまざまな活動・事業に対して手助けやコーディネートができるような内容にしていきたい。

○生涯学習大学のコーディネーターボランティアには、年齢制限は設けるのか。

⇒イメージとしては、生涯学習大学のOB・OGや経験者が、新しく大学に来た人材に対して、先輩としてサポートを行うような形である。年齢制限や何歳でなければならない、ということにはしない。

○公立・私立を問わず、学校ではボランティアを必要としているところも多い。卒業後の活動場所として、学校も視野に入れてはいいかがか。

○モニターコースや本格開校の際には、受講者の年齢制限を設けることはあるのか。

⇒基本的にはフラットに、「20歳以上」という制限のみと考えているが、今後の議論の中で検討していければと思う。



○モニターコース、本格開校ともに、上手いPRの方法を検討していかなければならないと思う。時代の流れとしてはインターネットが主流になりつつあるが、年代によってはまったくインターネットを見ない方々もいる。参加するための情報ツールがない、人材バンクに登録したいけれどやり方が分からないなど、広報の仕方によっても情報を得る手段に差異が出てしまう。

○人材バンクに登録するにあたっては、ひとまず卒業生全員に登録していただくのか、希望者のみなのか、今後検討していくべきだと思う。とくに在勤者は、卒業後も千代田区内で活動するかどうか分からないため、本当に千代田区に貢献していただけるような形づくりをしたい。



平成 27 年度 (仮称)生涯学習大学モニターコース実施案について

●意義と目的

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、グローバルな視点で地域人材を育成することが求められている。地球規模で物事を考え、地域で行動することがより重要になってきている。

生涯学習におけるさまざまな地域活動を通して、地域を担う人材を養成するため、来年度(仮称)生涯学習大学の開校を予定している。今回はそのモニターコースとして、「生涯学習コーディネーター養成～体験編～発信力」を開講する。

○私立学校では電車通学の児童が多く、学校が終わるとそれぞれの自宅まで帰ってしまうため、放課後に地域で活動したり、遊んだりする場がない。現在は、そうした場づくりができる経験豊富な大人の力が求められている。個人対学校ではやはり難しいので、生涯学習大学が中間に入ることで、ボランティアにご協力いただけたら嬉しい。

○共助会という障害者のための組織では、年に 2 回ほど講習会で人を招いている。知的障害者の方も身体障害者の方もいて、年齢もさまざまな中、こういった講師に来ていただければいいのか難しい部分がある。人材バンクも、こちらの希望に合わせて適切な人材を呼ぶことができるような、多様性のあるシステムであれば理想的である。

●コースについて

- ①基盤となる「生涯学習」
- ②生涯学習をベースとした「プロボノ(※)、ボランティア、コーディネーター」
- ③生涯学習を担う人材としての一つの資質として、「発信する力、受信する力」

上記 3 点を中心に、異なる価値観の大人同士の「関係づくり」と「場づくり」を学び、培う。

(※)プロボノ…各分野の専門家が職業上持っている知識やスキルを活かして、社会的・公共的な目的のために貢献するボランティアのこと



質疑応答・意見交換

○さまざまな方々を対象にモニターコースを実施するので、注釈をつけなければいけないような分かりづらい専門用語はできるだけ少なくし、噛み砕いた表現にするといいと思う。

○モニターコースでは、卒業後の活躍の場についてどの程度までやろうと考えているのか。

⇒ひとまずは、九段生涯学習館で発行しているコミュニティペーパー『DanDan』の区民

編集者・区民ライターとして関わっていただくことができるため、そのご案内は行う予定である。

○過去の講座の卒業生は、現在どのように関わっているのか。

⇒以前の事業の卒業生にも、『DanDan』の編集に携わっていただいている。また、人材バンクに登録し、活用講座の講師をされた方

もいる。少し形は違うかもしれないが、区民の方々から講座企画を募集するタイプのものとして、区民自主企画運営講座というものがあり、過去の生涯学習コーディネーター養成講座を受けた方がグループで応募してくださったこともある。

○昨年、一昨年の講座受講者の、在住・在勤等の内訳をお教えいただきたい。

⇒直近の講座では、参加者の約半数が在勤者である。講師陣からの評価では、こういった区の講座で在勤者がここまで多いのは珍しいとのこと。男女比は半々くらいで、40代・50代の現役世代からアクティブシニアと呼ばれる方々、主婦の方もいる。在勤者の傾向としては、神保町や丸の内でなにかしたいと希望されている方が多く、明確な目的・目標を持って参加される方が多数いる印象を受けた。



○過去の講座では、講座の雰囲気合わなかったり、自分の目的と違う内容だったりということで、途中で辞める方はいなかったのか。

⇒1回の講座につき、1～2名はいることもある。グループワークがあったり発表があったりと、講座の内容は結構ハードなので、自分の必要としている内容と違うと感じる方は、1回目が終わって早い段階で辞退されることが多い。

○過去に講座に参加したことがあるが、参加者はみんな熱心で、授業後のいわゆる「放課後」も、場所を移して話し合ったり、交流したりした。



リレー随筆 No.7

「50年目に思う」

石坂 八重子

私が神保町の地に嫁いで参りまして、この5月で丸50年となりました。

主人とともに家業を切り盛りしながら、いずれ手が空いたら、何か地元の皆様のお役にたてるようなことをやらせていただけたら、と考えておりましたところ、生涯学習推進委員にご推薦いただき、謹んでお受けすることにいたしました。

私が当地に参りましたころは、社屋の2階で家族や従業員とともに暮らしているような、いわゆる職住接近の街でしたが、半世紀の時間は街の性質を180度変えてしまい、オフィスが中心となって、当地に住まわれる方も激減し、区の方でも、居住人口の減少に頭を痛めているようです。

そんな住む人も減っている中、生涯学習大学を開校されても、果たして皆様にお越しいただけるのかしらと、素人なりに不安もありましたが、委員の皆様の熱意と、年齢にかかわらず学んでいくという姿勢の大切さ、またそれに対して学ぶ機会を設けていくという、生涯学習の素晴らしい理念に触れ、ご推奨いただいた役目の重さを改めて感じております。

何分、この半世紀稼業一筋でやって参りましたので、行き届かない面もあるかと存じますが、73歳の年の功とでもいう経験が少しでも生かせればと頑張っ参ります。どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

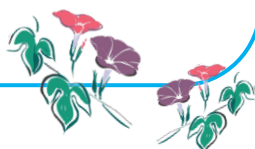
「生涯学習大学が千代田区にできま〜す」
谷 真理子

『生涯学習』って？という言葉をいつも考えてしまいます。だれでもいつでも勉強するってこと？

ウィキペディアには、“(lifelong learning) 人が生涯にわたり学び・学習の活動を続けていくこと。日本においては、「人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行う学習」とあります。

いつも思う事ですが、勉強しなくなった時が旬であり、無理にいやいや詰め込んでも、結局身につかないのではないかと？幼児教室しかり、その子がその気になっていれば、どんどん勉強させていくのは大変結構ですが、泣きながら無理やりやらせるのはどうでしょうか？これにも異論がありますが……ね。幼い時には、しっかり遊ばせるのがいちばんではないのでしょうか。遊ぶということも生涯学習。結果は、成長してから出てくるものだと思います。遊ぶという旬を逃してしまったら、後戻りできません。今回千代田区で、生涯学習大学が作られようとしています。千代田区を覇権しているわけではありませんが、それこそ、利用しなくてはもったいないと思っています。

私は、団塊の世代と言われる一番人口が多い世代です。大学時代は紛争の真最中、希望を抱いて入った大学だったのに、休校。現在還暦を過ぎ、子育ても一休み、今また勉強しなくなってきています。大学（バウチャー制度利用）に行ってもいいし、生涯学習大学を利用していいし、これから、私の輝く旬をむかえたいと思います。



編集後記（事務局より）

第10期第6回のエポックをお送りいたしました。今年度からいよいよ始まる（仮称）生涯学習大学モニターコースの実施に向け、委員からはさまざまな意見と提案をいただきました。

また、ご多忙の中、リレー随筆をお引き受けいただいた石坂委員、谷委員に、心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしくお願いいたします。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1

TEL：03-5211-3632

FAX：03-3264-1466

Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

